ホームページにジャンプできます

# みんなの森 通信

２０２６年２月発行

社会福祉法人 みんなの森福祉会
理事長　大嶋　弘之

Vol.４４

どんぐり保育園　浜松市中央区中郡町1872　TEL 053-433-5330
くすのき保育園　浜松市浜名区高畑897　TEL 053-589-3340
まつのき保育園　浜松市中央区西伊場町7−5　TEL 053-488-6166
小規模保育事業所 みかんの家　浜松市中央区西伊場町7−4　TEL 053-488-6167
児童発達支援事業所「ころころ」浜松市中央区中郡町1802-2 TEL 053-424-6262
児童発達支援事業所「ころころ伊場」浜松市中央区西伊場町7−5　TEL 053-488-6169

## ～保育問題研究協議会　研究学習会に参加して～

１１月、県内複数の保育園職員がグランシップ（静岡市）に集まり、１日かけて学習しました。当法人からも４７名の職員が参加し「乳児保育」「あそび」「美術」の分科会でそれぞれ実践発表をしました。

他園の保育実践も聞くことができ、学ぶことで自分の保育を振り返り、明日からの保育に生かせる有意義な学習会となりました。

### 気持ちの良い排泄自立を目指して

～くすのき保育園０歳児の保育実践～

育児環境や子育てに対する考え方の変化、性能の良い紙おむつの普及など、様々な要因により近頃の排泄自立は、随分ゆっくりになっていると感じています。

実践報告では、歩行が安定した早い段階から綿パンツで過ごすことでまずは自分から排泄物が出るという事を知る、そしてその感覚を脳で認識することが排尿感覚の発達につながっていくということでした。トイレやおまるに座って排泄することが自然な行動として身につけられることで排泄に抵抗感なく気持ちの良いものとなり、すっきりした気持ちで活動に向かうことができるようになる。すると友だちや大人と夢中で遊び込める時間ができ遊びが充実したものになるのだということを学びました。排泄自立の取り組みの大切さを改めて感じました。

### アゲハ蝶の飼育を通した日々の感動体験
### ～飼育活動での子どもの姿と成長の変化

～まつのき保育園４歳児の保育実践～

子どもの発見や疑問から始まった飼育活動。子どもが「なんで？」と疑問に思ったことは聞いたり、調べたり、謎解きをしていきました。その中で色々な発見をする子どもたちの目はキラキラ輝いていました。

数人から始まった遊びがやがてクラス全体に広がり、子どもも大人も一緒に虫の変化を楽しみ、ワクワクする毎日を送った実践でした。この実体験を通し、感動したり、ドキドキしたり、心が動く経験を経て、子どもたちは色々な感情を表わし、仲間と繋がっていきました。

子どものあそびが始まるきっかけはこれ！と決まっているわけではありません。日々の生活の中にあそびが溢れています。子どもたちが面白い！と感じた瞬間にあそびが始まり、あそびの中で心を動かし、仲間とともに成長していきます。あそびの分科会ではまさに全体のテーマである「あそびから子どもは何を学んでいるのか」を深める交流になりました。

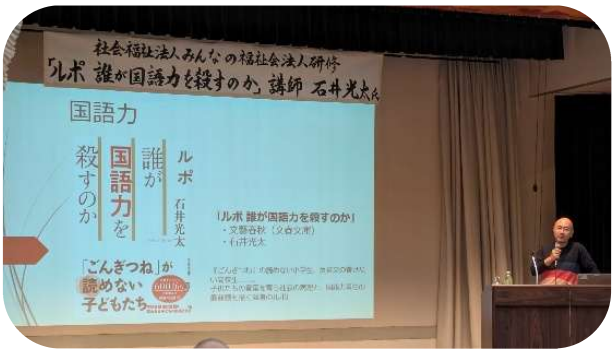
### 「絵を聴く」～子どもの心と出会い、共に育つ

～どんぐり保育園５歳児の保育実践～

子どもにとって絵を描くことは自分の心を表現するものです。その子がどんな思いで描いているのか、何を伝えたいのか、大人は寄り添いながらその思いを聴く「絵（心）を聴く」ことを大切に考えています。

絵がなかなか進まなかった子が大人との丁寧な対話の積み重ねにより思いを表わすことができるようになり、イメージが具体的なものへと膨らんだことで、描きたい思いにつながりました。まさに心を聴いたことで変化した子どもの姿の報告でした。

# 法人研修開催　ルポ「誰が国語力を殺すのか」より




毎年恒例の法人研修を全施設の職員対象で行いました。今年はノンフィクション作家の石井光太氏をお招きし「国語力」について講演いただきました。

「国語力」とは、年相応の語彙力をベースにして、五感で感じたことを言葉で考え、想像し、表現し伝える力であり、まさに「生きる力」となるものです。

石井氏は、少年の殺人事件や嬰児殺害事件の原因を解明しようと取材を重ねました。そして解ったことは「国語力のなさ」。最近の子どもたちがよく使う「きもい」「しね」など主語述語のない文章にならないことば。それが日常化していることで先を見通して考えることが出来ず、短絡的な殺人事件に至っているということです。一人が「殺せ」と言ったことで手にしたカッターナイフで切りつけ、次々に「殺せ」と言っては複数人で何十回も被害者を切りつけついに殺してしまった。始めは殺すつもりもなかったのに、言葉に踊らされ結果を想像することすらできず。思考力がないということは想像力もないということです。

私たちは、豊かでていねいな言葉のやりとりで生活することが困難な環境にある子どもには、ことさら配慮して保育をする責任があります。

なぜなら年齢に見合った国語力を育み「深い思考や物事の理解（解像度）」を上げ、理論立てて考えること、言葉を使って他人と折り合いをつけることは、その子の生きやすさにつながるからです。

## わたしたちができること、国語力と保育理念

私たちは保育の中で言葉の出ない赤ちゃんの気持ちを言葉で代弁したり、泣けたり悔しくて表現しきれない子どもの気持ちを汲み取り言葉にして、その子と共感しています。こうした保育はまさに言葉の土台を作っているのです。現代社会ではスマホやタブレットで言葉のシャワーをたくさん浴びているように見える子どもたちですが、一方通行の受け身の言葉では国語力はつきません。私たちが行っている仲間と話し合って生活を作ったり気持ちの折り合いをつけたりするなど、生きた言葉のはぐくみが大事となるのです。

講演後、職員でグループワークをしました

- **「仲間とともに感情が揺さぶられるような実体験」をすることで「他人に伝えたい！」気持ちがわいてくる**
- **人への信頼感が「わかってもらいたい」「自分のやりたいことを実現したい」意欲となり、国語力が総合的についてくる**

まさに、今回のお話は、この法人の理念「豊かな自然体験と仲間とのかかわり」が今の子どもたちに重要だと確信するものでした。

「どうしたら大人になっても国語力を上げることができますか？」という参加者の質問に、講師からは「筋トレと同じで少し負荷をかけることです」というアドバイスでした。ネットでなく新聞をもっと読む、少し難しい書物に手を伸ばす等、私たち自身に課題を与えられた機会となりました。

## ２０２５年８月～２０２５年１２月意見・要望・苦情報告

■どんぐり保育園、くすのき保育園、まつのき保育園、小規模保育事業所みかんの家
意見・要望・苦情ともにありませんでした。

■児童発達支援事業所「ころころ」、「ころころ伊場」
意見・要望・苦情ともにありませんでした。